

令和8年3月18日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。また、【 】内の数値は左側が2月下旬～3月上旬の発生予察調査のデータ、右側が平年値(過去10年の平均値)を示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

また、下表の病害虫を防除する場合は、「千葉県総合防除計画」の該当ページ(※)の「総合防除の内容」を参照するとともに、3ページの「2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項」も参考とすること。

[千葉県総合防除計画（令和6年3月版）](#)



作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (2月下旬～3月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イネ	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	やや多	冬季気温(12月～2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値): やや高(+)	<u>19</u>
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	並	発病株率: やや少【0.00%/1.52%】(-) 気象予報: 降水量並か少(+) 日照時間並か多(+)	<u>30</u>
	灰色かび病	多	発病株率: 多【13.60%/3.00%】(+) 発病果率: 多【0.25%/0.02%】(+) 気象予報: 気温高(+) 降水量並か少(-)	<u>31</u>
	オンシツコナジラミ	並	成虫寄生株率(オンシツコナジラミ): 並【0.00%/0.16%】	<u>33</u>
	タバココナジラミ	多	成虫寄生株率(タバココナジラミ): やや多【0.80%/0.16%】(+) 2月黄色粘着トラップ誘殺数: 多【7.97頭/0.71頭】(+) 気象予報: 気温高(+) 日照時間並か多(+)	<u>33</u>
春 キ ャ ベ ツ	菌核病	多	発病株率: やや多【4.80%/1.60%】(+) 気象予報: 気温高(+) 降水量並か少(-)	<u>36</u>
	アブラムシ類	やや多	成幼虫寄生株率: やや多【3.20%/5.52%】(+) 気象予報: 気温高(+) 降水量並か少(+)	<u>37</u>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠 (2月下旬～3月上旬の発生予察結果及び気象予報等)	※
イチゴ	うどんこ病	やや少	発病株率：並【1.07%/1.39%】 気象予報：日照時間並か多（－）	42
	灰色かび病	少	発病株率：やや少【0.27%/2.71%】（－） 発病果率：やや少【0.03%/0.34%】（－） 気象予報：気温高（＋） 降水量並か少（－）日照時間並か多（－）	43
	アザミウマ類	多	成幼虫寄生株率：やや多【4.53%/1.60%】（＋） 2月黄色粘着トラップ誘殺数：並【2.47頭/2.86頭】 気象予報：気温高（＋）日照時間並か多（＋）	44
	アブラムシ類	やや多	成幼虫寄生株率：並【1.87%/2.87%】 2月黄色粘着トラップ誘殺数：やや少【0.27頭/3.93頭】（－） 気象予報：気温高（＋）日照時間並か多（＋）	44
	ハダニ類	やや多	成虫寄生株率：並【23.47%/26.98%】 気象予報：気温高（＋）日照時間並か多（＋）	45
ナシ	黒星病	並	罹病芽率：少【0.00%/1.11%】（－） 秋型病斑発病葉率：並【1.85%/1.65%】 気象予報：降水量並か少（－）	24
ビワ	果樹カメムシ類	並	チャバネアオカメムシ早期発生予測モデルによる発生量： 中程度	28
カーネーション	アザミウマ類	やや多	被害株率：並【3.20%/6.66%】 2月黄色粘着トラップ誘殺数：並【2.80頭/1.67頭】 気象予報：気温高（＋）日照時間並か多（＋）	-
	ハダニ類	並	成虫寄生株率：並【0.00%/0.64%】 気象予報：気温高（＋）日照時間並か多（＋）	-
野菜・花き共通	コナガ	並	2月フェロモントラップ誘殺数：少【0.07頭/0.18頭】（－） 10株当たり寄生幼虫蛹数（春キャベツ）： やや少【0.00頭/0.19頭】（－） 被害株率（施設ストック）：並【0.00%/2.79%】 気象予報：気温高（＋）降水量並か少（＋）	45

* 1 フェロモントラップ誘殺数：1日当たりの誘殺数

1 防除に関する措置（共通）

- (1) 病害虫は早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
- (2) 発病株及び罹病部位は、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) 害虫の薬剤抵抗性の発達や耐性菌の発生を防ぐため、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- (4) 病害虫の発生を予防するため、温湿度管理、防虫網の設置、周辺雑草の除草、輪作や緑肥作物の栽培等の耕種的防除及び物理的防除に努める。

2 個々の病害虫に関する防除上の注意事項

- (1) 水稲（スクミリンゴガイ）

「あなたの田んぼは平らですか？均平からの総合防除」も参照する。



(2) コナジラミ類 (冬春トマト)

令和7年度病害虫発生予報第2号P3「これから注意を要する病害虫」も参照する。



(3) 灰色かび病 (冬春トマト)

令和7年度病害虫発生情報第6号「トマト灰色かび病の多発生に注意」も参照する。



(4) 菌核病 (春キャベツ)

令和7年度病害虫発生予報第7号P4「これから注意を要する病害虫」も参照する。



(5) アブラムシ類 (春キャベツ)

気温の上昇とともに、野外でのアブラムシ類の活動が活発となる。ほ場等の見回り等による早期発見に努め、発生初期に防除する。令和7年版農作物病害虫雑草防除指針 (キャベツ) も参照する。



(6) アザミウマ類 (イチゴ)

気温の上昇とともに、野外でのアザミウマ類の活動が活発となり、ハウスへの侵入が増加するため、花への寄生をこまめに観察し、速やかに防除する。令和7年版農作物病害虫雑草防除指針 (イチゴ) も参照する。



(7) アブラムシ類 (イチゴ)

気温の上昇とともに、野外でのアブラムシ類の活動が活発となる。ほ場等の見回り等による早期発見に努め、発生初期に防除する。令和7年版農作物病害虫雑草防除指針 (イチゴ) も参照する。



(8) ハダニ類 (イチゴ)

気温の上昇とともに、野外でのハダニ類の活動が活発となり、ハウスへの侵入が増加するため、ほ場をこまめに観察し、速やかに防除する。令和7年版農作物病害虫雑草防除指針 (イチゴ) も参照する。



(9) アザミウマ類 (カーネーション)

令和7年度病害虫発生情報第5号「カーネーションにおけるアザミウマ類の発生状況について」も参照する。



II その他の情報

イネ縞葉枯病の常発地における保毒虫率と捕獲虫数の結果

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカ（写真1）が媒介するウイルス病である。生育初期に発病すると、新葉に黄緑色～黄白色の斑紋を縞状に生じ（写真2）、巻いて垂れ下がる「ゆうれい症状」（写真3）を引き起こし、枯死することによって茎数が減少する。また、生育中期に発病すると穂の「出すくみ」（写真4）や奇形を生じ穂数が減少する。

昨年11月の越冬世代幼虫の保毒虫率と本年2月中下旬のイネ科雑草地における越冬虫数を本病の常発地で調査したところ、保毒虫率は前ヶ崎、笹川以外の地点で前年より高くなり、船形、小松の2地点で10%（保毒虫率の要防除水準を10%としている県がある。）を上回った。また、酒直ト杭、小松、新井の3地点で前年より多くのヒメトビウンカが捕獲された（表）。

イネ縞葉枯ウイルスは経卵伝染するため、越冬前の保毒虫率は、次年度の本病発生に影響を及ぼす要因の一つとなる。そのため、越冬前の保毒虫率が高い地域では、発生動向に注意し、必要に応じて防除を行う。また、保毒虫率が高く、かつヒメトビウンカの捕獲数が多い地域では、より一層の注意が必要である。

本病の発生が懸念される地域では、苗箱施用などの薬剤防除を実施し、感染の抑制に努める。また、収穫後の早期耕うんや、ほ場周辺の雑草の除去（特にイネ科雑草）を行い、越冬虫数及び保毒虫率を下げるのが重要である。



写真1
ヒメトビウンカ



写真2
縞状の病斑



写真3
ゆうれい症状



写真4
穂の出すくみ

表 イネ縞葉枯病常発地における昨年11月のヒメトビウンカ越冬世代幼虫の保毒虫率及び本年2月中下旬のイネ科雑草地における3㎡あたりの捕獲虫数

調査地点	保毒虫率		イネ科雑草地における捕獲虫数（頭/3㎡）		
	本年値	前年値	本年値	平年値	順位
野田市船形	15.22%	4.35%	0	0.63	4-9位/9年
柏市新利根	8.70%	0.00%	0	0.50	3-9位/9年
流山市前ヶ崎	0.00%	3.26%	1	3.43	2位/8年
我孫子市下ヶ戸	2.17%	0.00%	0	1.25	4-9位/9年
我孫子市浅間前	9.78%	0.00%	0	0.13	2-9位/9年
印西市酒直ト杭	3.26%	0.00%	2	0.38	1位/9年
神崎町小松	17.39%	3.26%	13	2.38	1位/9年
香取市森戸	3.26%	1.09%	0	4.86	4-8位/8年
東庄町笹川	0.00%	0.00%	1	1.13	2位/9年
横芝光町新井	2.17%	1.09%	5	1.63	2-3位/9年

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：2月中旬、野菜：3月上旬、果樹：2月、花き：2月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ（県内全域）	イネミズゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.00	0.86	0.09	
	イネゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.04	0.17	0.10	
	イネクロカメムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.00	0.04	0.00	
	ヒメトビウンカ	畦畔3m吸い取り成虫数	1.13	1.96	0.21	
	ツマグロヨコバイ	畦畔3m吸い取り成虫数	0.10	1.35	0.03	
冬春トマト (海匠、長生)	萎凋症	萎凋株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率(%)	0.00	1.52	0.00	
	灰色かび病	発病株率(%)	13.60	3.00	0.00	
	〃	果実発病度	1.10	0.16	0.00	
	すすかび病	発病株率(%)	1.60	0.00	0.00	
	モザイク病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率(%)	0.00	0.15	0.20	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.00	0.16	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	0.80	0.16	0.00	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.16	0.00	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	7.97	0.71	1.32	
アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00		
春キャベツ (海匠)	菌核病	発病株率(%)	4.80	1.60	0.00	
	黒腐病	発病度	0.60	0.14	0.20	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	3.20	5.52	42.40	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.19	0.00	
イチゴ (海匠、山武、安房)	うどんこ病	発病株率(%)	1.07	1.39	1.60	
	〃	発病果率(%)	0.00	0.12	0.05	
	灰色かび病	発病株率(%)	0.27	2.71	0.27	
	〃	発病果率(%)	0.03	0.34	0.02	
	ワタアブラムシ	成幼虫寄生株率(%)	1.87	2.87	4.80	
	アブラムシ類	黄色粘着トラップ誘殺数	0.27	3.93	0.77	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.27	0.00	0.00	
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	4.53	1.60	4.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.47	2.86	3.01	
ハダニ類	成虫寄生株率(%)	23.47	26.98	17.60		
ハウススイカ (印旛、山武)	うどんこ病	発病株率(%)	0.00	0.24	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生率(%)	0.00	0.04	0.00	
	ハダニ類	成虫寄生率(%)	0.00	0.04	0.00	
ナシ（県内全域）	黒星病（秋型病斑）	発病率(%)	1.85	1.65	1.30	前年10月調査
	黒星病	罹病芽率(%)	0.00	1.11	0.08	
	輪紋病	発病度	0.03	0.02	0.00	
	卵越冬ハダニ類	産卵数	0.00	0.46	0.00	
	ナシチビガ	越冬蛹数	0.00	0.01	0.00	
カーネーション (安房)	萎凋症	発病株率(%)	0.00	0.44	0.80	
	立枯病	発病株率(%)	0.00	0.88	0.00	
	アザミウマ類	被害株率(%)	3.20	6.66	0.00	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.80	1.67	0.00	頭/30日
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.34	0.80	
	〃	黄色粘着トラップ誘殺数	2.80	2.89	2.48	頭/30日
ハダニ類	成虫寄生株率(%)	0.00	0.64	0.00		
施設ストック (安房)	菌核病	発病株率(%)	0.00	0.15	0.00	
	萎凋病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	黒腐病	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	コナガ	被害株率(%)	0.00	2.79	4.00	
	〃	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.36	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	0.00	0.00	

*黄色粘着トラップ誘殺数：438 cm²の黄色粘着トラップに30日間に誘殺された個体数

トラップ月間誘殺数（2月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠	0.07	0.18	0.29	頭/日

○気象予報

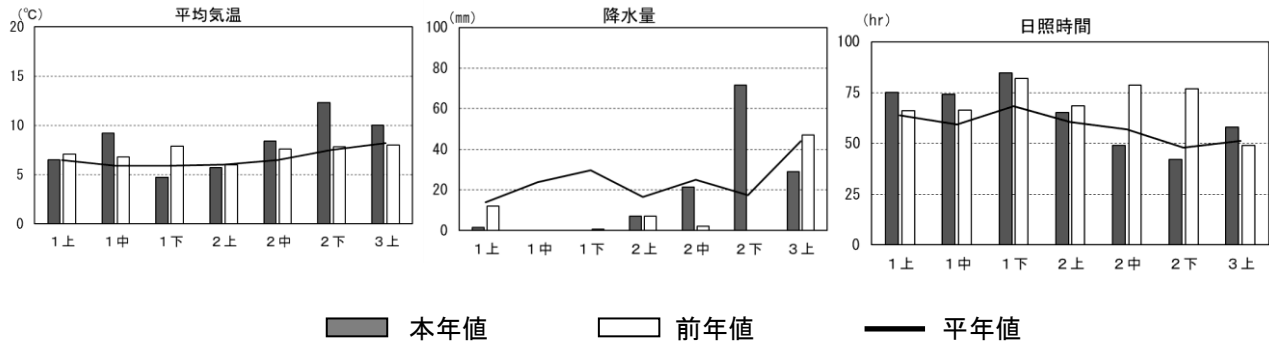
3月12日気象庁発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	10	20	70
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(3月14日～4月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	11.6	11.4	11.8
降水量(mm)	114.7	143.6	165.2
日照時間(hr)	175.1	179.2	174.7



過去2か月の気象概況(アメダス千葉、銚子地方気象台提供)

農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

- ・ 病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・ 次回の発行予定は令和8年4月15日です。
なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

- ・ 県内で栽培される主要な農作物に発生する病害虫や雑草を
防除するための指針が千葉県HPで公開されています。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/shokubo/bojoshishin.html>

- ・ 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>



問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp